

(第1号掲載【中央アジア現地事情】カザフスタン—草原の村でのフィールドワーカー)

## 地図をめぐるトラブル

藤 本 透 子

昨年の『日本中央アジア学会報』第1号の【中央アジア現地事情】「カザフスタン—草原の村でのフィールドワーカー」で、岐阜県図書館の世界分布図センターに所蔵されているソ連時代の20万分の1の地図が役に立つと書きました。しかし、この地図をめぐる、2005年4月、カザフスタンから帰国時にトラブルがありました。

この地図は、ソ連時代には軍用地図として機密扱いでしたが、現在では公開されています。ところが、世界分布図センター所蔵の地図には「機密扱いから外す」旨のスタンプが押されていません。私が所持していたのは、この地図のカラーコピーのさらに白黒コピーだったのですが、空港で問題になりました。普段は荷物の隅から隅まで調べられることはありませんが、荷物が多かったため「宗教書はないか」調べられ、地図が発見されました。カザフスタンでの所属先だった東洋学研究所と、アルマトゥ市でのホームステイ先に安全保障委員会からの問い合わせがあり、かなり大変だったようです。

このハプニングは、調査地であるカザフスタン北部の村にも風聞として伝わりました。2005年10月に補足調査に行った際に「トウコはスパイ容疑でつかまり、もう来ないと聞いて心配していた」と言われてしまいました。

私の確認の甘さが原因ですが、この地図を利用される際には気をつけられるようお願い申し上げます。

(京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程)